

中部ペンクラブ

第70号
 発行所
 中部ペンクラブ事務局
 〒464-0067 名古屋市千種区
 池下1-4-17 オクト王子ビル6階B室
 TEL(052)752-3033 F3011
 編集委員長：中村賢三
 製作：(株)総研

第32回総会の公開講演会は

辻原登さんに決まる

第32回中部ペンクラブ総会は、6月18日(日)、午後2時から昨年と同様にルブラ王山を会場に開催される。引続いて3時より『公開文学講演会』となる。今年の講演は、芥川賞はじめ数々の文学賞に輝く作家、辻原登さんを招き行われることが決まった。

演題は「文学は必要か? ない。そして…、やはりない。―誰のものでもない悲しみについて―」

講演会は一般公開ですから身近な方を誘ってご参加ください。(中部ペン会員外は参加費五〇〇円、学生無料)。講演会後、著書のサイン会もあります。また、午後5時から第30回中部ベ

ンクラブ文学賞の表彰式・選評、引続いて会員の受賞と出版を合同で祝う会(パーティー)を開催します。(参加費は七千円で事務局へ6月9日(金)までに申込み)

【総会・講演会・受賞式パーティー出欠案内ハガキは、5月中旬に会員宛発送します】

辻原登(つじはらのぼる)さん

1945年、和歌山県生まれ。作家。神奈川近代文学館館長。1990年『村の名前』芥川賞でデビュー。『翔べ麒麟』(読売文学賞)、『遊動亭円木』(谷崎潤一郎賞)、『枯葉の中の青い炎』(川端康成文学賞)、『花はさくら木』(大佛次郎賞)、『許されざる者』(毎日芸術賞)、『闇の奥』(芸術選奨文部科学大臣賞)、『鞭鞭の馬』(司馬遼太郎賞)、『冬の旅』(伊藤整文学賞)、『新版 熱い読書 冷たい読書』(毎日出版文化賞)、他に『寂しい丘で狩りをする』、『Yの木』、『籠の鸚鵡』などの作品で純文学の域を超えた創作活動を繰り広げる。2012年、紫綬褒章。2016年、日本芸術院賞、恩賜賞。



辻原登さん

第30回中部ペンクラブ文学賞

候補5作品選ばれる

本年度の応募は1月15日に締め切られ、中部地区から23作品が応募された。文学賞運営委員会(名村和実委員長)で次の候補5作品が選ばれた。

本選考会は4月10日(月)に行われる。この会を経て受賞作が決定する。

文学賞の表彰は、例年通り6月18日(日)総会・講演会後の午後5時からのパーティーの席で行われる。

◆候補作品(応募到着順)

- 「3・5センチの隙間」 有芳 凜 (名古屋市)
- 「じゅん文学」 89号 (名古屋市)
- 「紅沢がに」 西村春枝 (岡谷市)
- 「黒馬」 44号 (岡谷市)
- 「樟」 西垣みゆき (菰野町)
- 「文芸きなり」 82号 (菰野町)
- 「秋の間奏曲」 長沼宏之 (四日市市)
- 「弦」 99号 (名古屋市)
- 「砂の本―驚馬」 山口 馨 (富山市)
- 「渤海」 69号 (富山市)